

個性

校長 武井 正明

朝出掛ける前、偶然サンドウィッチマンの「病院ラジオ」という番組を見た。
いい番組だった。

もともとこのコンビの笑いには、センスと愛情と優しさがあるが、この番組自体、彼らの温かい人柄がそのまま滲み出ている番組だった。

出演した人たちは皆、入院して病気と闘い、背負っている人たちである。

その人たちに、ふたりは敬意と労わりをもって、丁寧にひとつひとつ質問をしながら、彼らが日頃、どんなことを考えているのか、そして、家族に向けて普段は言えない感謝の言葉を引き出していく。それは視聴者を含めて、癒しの時間になっている。

その中に、物心つくまで自分の状況が理解できなかった 13 歳の男の子がいた。友達に「なんでそんな顔なの？」と訊かれて母親に問うと、彼の特性を意外なほど淡々と、母は子に説明したそう。

そして、自分はなんで普通じゃないのと訴える息子に「普通って何？」と問い返したそう。人は持って生まれたものがある。外見上も内面も。その総てを、この母親は「個性」と表現した。母親の言葉を聞いた息子は、自分の個性を受け容れ、しっかりと自分の考えをもって、自分の人生を生きている。中学生にして、本当に立派な生き方だと思った。

個性という言葉は、時に残酷な、使い勝手のいい言葉のように感じる時がある。

こんな顔に、こんな見た目に、こんな境遇に生まれたくはなかった、と思ったことのある人は私だけではないはずだ。ただ、これだけは言える。

自分という人間は、世界中どこをおいても自分しかいない。自分の人生は、誰にも邪魔されない自分だけのものだ。

吉中の君たちも 543 人いれば、生き方だって 543 通りある。思うようにいかない今の自分が、嫌で仕方がない人もいるだろう。

でも、絶対に自分自身をあきらめてはいけない。自分という人間を可愛がって、少しでも前に成長させていくのだ。

それが産んでくださった親に対してできる、最大の恩返しだと思う。

一生懸命に個性を光らせている瞬間を、今日また写真に収めさせてもらった。

その一瞬、その輝きは今、その時しかないのだ。その球を見つめる眼、シビれるわ…。だから中学時代の今、精一杯輝いてほしい。